

## はじめに

**平田 光司**

hiratai@soken.ac.jp

本レクチャー代表者

総合研究大学院大学教育研究交流センター

---

本書は3年連続の講義シリーズの第1回として開かれた「科学における社会リテラシー1」の講義録です。レクチャーは2003年8月4日(月)から8日(金)まで総研大葉山キャンパスで行われました。

科学・技術は、現代の社会に欠くことのできないものになっています。一方、科学の研究は社会の中で行われる「社会的行為」でもあります。ある研究分野への予算・人材の重点的投入を決めるのは政策によるものですし、逆に特定の研究の実質的な禁止なども起きていて、研究者が社会とのつながりを意識する局面が急速に増えています。

これからの科学者は、科学の研究を進める上でも、科学における社会的側面について無関心では済ませられなくなっています。さらに、研究において先導的に社会的要請に答え、また、社会に働きかけることも責任として生じてくるでしょう。本レクチャーの目的は、将来の科学者に共有されるべき「社会リテラシー」の構築を目指して講義を行い、社会と科学の関係について考える出発点を与えることです。科学・技術についての基本的考察「科学原論」、現実的な局面で現れる問題としての「科学政策・行政」、科学から社会へ、また社会から科学へという「科学と社会のコミュニケーション」の3つの分野を中心とします。

このシリーズは、科学技術社会論学会(2001年設立)にも協力していただいています。